コーパスを用いた応答表現 *Exactly* とその類義表現の語法分析

山　本　五　郎

1　序　文

本稿では英語の話し言葉において、対話者の発話を受けた際に用いられる聞き手による応答表現[1] *Exactly* とその類義表現である *Precisely* に焦点を当て、コーパスを用いた語法分析を行う。

会話において、聞き手によって用いられる所謂あいづちやそれに類する表現については、その機能や使用頻度などについて様々な研究が行われてきた。会話における話者交替（turn-taking）の分析であいづち表現の機能についても言及した Yngve（1970）では、定型的なあいづち表現だけでなく *Oh, I can believe it* のような文レベルのコメントまでが聞き手によるあいづち表現として用いられることを示し、その表現形式は多岐に渡ることを指摘している。しかしながらこれまでの研究では *oh, uh-huh, wow* のような非語彙的な表現や *really* など一部の典型的な表現に焦点が当てられることが多く、分析の対象として取り上げられていない表現も少なくない。特に応答表現として用いられる *Exactly* については、McCarthy（2003）のように一部の研究で会話における使用頻度等について述べられてはいるものの、その類義表現との比較や語法に焦点を当てた研究はこれまで充分に行われておらず、代表的な ESL/EFL 用辞書においてもその記述は限定的である。また、語法書でも会話における応答表現としての用法は扱われていないことが多く、例えば Biber et. al.（1999）では最も使用頻度の高い程度（degree）を表す副詞の1つとして exactly を挙げているものの応答表現の語法には言及していない。

以上のような背景を踏まえ、本稿では、応答表現 *Exactly* とその類義表現である *Precisely* の主だった辞書での記述を概観した上で、コーパスを用いて語法と談話上の機能を分析する。

2　先行研究：ESL/EFL 用辞書の記述

本節では、応答表現として用いられる *Exactly* とその類義表現として *Precisely* に注目し、語義や用例を提示している主だった ESL/EFL 用辞書の記述を以下（1）－（18）で取り上げ[2]、その記載内容及び用例について考察する。

2.1　*Exactly* の記述

以下（1）から（9）に *Exactly* の辞書の記述を引用しその語義についてまとめた。

（1）LAAD 2 [s.v. EXACTLY]

SPOKEN PHRASES

3 exactly used to say that you agree with what someone has said:
"So you're saying there's no money left?" "*Exactly*."
4 Not exactly ... b) used to say that what someone has said is not completely correct or true:
"Is anything wrong?" "Not *exactly*, I'm just a little worried."

(1) では発話内容に対する同意として用いられる他、Not を伴って、対話者の発言内容が完全には正しくない、または真実ではないことを示す表現であることが記されている。

(2) OALD9 [s.v. EXACTLY]
Used as a reply, agreeing with what sb has just said, or emphasizing that it is correct:
'You mean somebody in this room must be the murderer?' '*Exactly*.'

(2) では発言された直近の内容に対する同意やその内容が正しい事を強調する返答表現として用いることが記されている。(1) で記載のあった否定辞を伴う表現については触れられていない。

(3) MWALED [s.v. EXACTLY]
2 *informal* - used in speech to say that what someone has said is exactly correct or that you agree with it completely
"So you think we should take an earlier flight?" "*Exactly*." [=yes, that's exactly what I think]
"It's just not worth the trouble." "*Exactly*."
not exactly *informal* 1 - used in speech as a mild way of saying "not" especially to indicate that what someone has said is not completely correct or true.
"He's your boss, isn't he?" "*Not exactly*."
"Did everything go the way you planned it?" "*Not exactly*."

(3) ではくだけた話し言葉の表現として、対話者の発話内容が間違いなく正確なことを示したり、またはその内容に完全に同意する場合に用いられることが認められている。用例では、疑問文に対する返答として yes の代用表現として用いられることが示唆されている。また (1) や (2) とは異なり、平叙文に対する受け答えでも用いられることが用例で示されている。否定辞を伴って、相手の発話内容が完全には正しくないまたは真実ではないことを控え目に伝え

る表現として使われるという点は（1）と同様である。

以下の (4) から (6) では、(1) から (3) で記載されている内容と符合する語義と用例が記されている。話し言葉における強意的な返答表現としての用法と否定辞を伴う用法は共通して認められており、また先行する発話が必ずしも疑問文ではないという点も用例に共通している特徴である。

（4）MED 2 [s.v. EXACTLY]

3 spoken used as a reply for saying that you completely agree with someone:

'If he does that again, he could lose his job.' 'Exactly!'

PHRASES not exactly spoken 2 used for saying that something that someone says is not completely right:

'You're leaving, aren't you?' 'Not exactly, I'm just going on holiday.'

（5）CCADE 8 [s.v. EXACTLY]

ADV If you say 'Exactly', you are agreeing with someone or emphasizing the truth of what they say. If you say 'Not exactly', you are telling them politely that they are wrong in part of what they are saying.

Eve nodded, almost approvingly. 'Exactly.'

'And you refused?' 'Well, not exactly, I couldn't say yes.'

（6）CALD 4 [s.v. EXACTLY]

A2 Used when you are giving or asking for information that is completely correct:

"What you seem to be saying is that more should be invested in the road system and less in the railways." "Exactly" (=that is correct).

Not exactly b B2 used for saying that something is not completely true:

"So you gave her your iPod?" "Not exactly, I lent it to her."

以下の LDOCE 6では、応答表現としての語義と用例とは別に類義の欄を設け、precisely を類義の1つとして取り上げて文中で用いられる副詞の用法について用例を提示しているが、応答表現の用法には触れていない。応答表現の語義については、以下の（7）に示されているように上記の辞書で認められた内容と同様である。

（7）LDOCE 6 [s.v. EXACTLY]

3 not exactly spoken a) used as a reply to show that what someone has said is not completely correct or true:

"You hate Lee, don't you?" "Not exactly. I just think he's a bit annoying, that's all."

4 spoken used as a reply to show that you think what someone has said is completely correct or true:

"So you think we should sell the house?" "Exactly."

(8) では、(1) から (7) と同様の語義に加えて、積極性と so を伴う場合についての注記が付されている。また否定的な表現として用いる場合には丁寧さと歯切れの悪さという側面についての注記があり、一歩踏み込んだ内容となっている。

(8)『ウィズダム英和3』[s.v. EXACTLY]

2 [[同意]] ((話)) [[間投詞的に]] (相手の発言や質問に対して) そうです、その通り (【!】積極的な同意を表し、しばしば so を伴う).

【コミュニケーション】

A: That's what you really mean.

それがあなたの本音ね.

B: Exactly.

その通り.

nòt exáctly* ((話)) (2) [[相手の発言を修正して；間投詞的に；Not ～.]] (それは) ちょっと違うな (【!】丁寧ではあるが歯切れが悪い)

"And they agreed?" "Well, not exactly. They just didn't object."「で、賛成してくれたの？」「いや、そういう訳じゃないんだ. 反対はしなかったけど」.

(9) では、積極性についての記述はないものの、否定辞を伴って用いられる際の注記として (8) と同様に丁寧さについての記述がある。

(9)『ジーニアス英和5』[s.v. EXACTLY]

3 ((略式)) [相手が言ったことに同意して；間投詞的に用いて] その通り

"You mean I should apologize to her?" "Exactly."「僕が彼女に謝るべきだっていうのかい？」「その通り」.

nòt exáctly (3)[Not～.] ((略式)) [間投詞的に用いて]] ちょっと違います、そういうわけでもないのです《◆ No. よりも穏やかでていねいな言い方》

"Is this the way you want it?" "Not exactly."「こんな風にしてほしいのですね」「うー

ん、ちょっと違いますね」

主だったESL/EFL用辞書の引用を概観すると、応答表現として用いられる場合の積極性や、否定辞を伴う際の丁寧表現としての側面について一部の辞書で触れられている一方で、先行する発話については疑問文のものと平叙文のものがありばらつきがみられる。また応答表現としての類義表現に言及しているものはない。(7) では応答表現についての記述とは別に、類義欄が設けられていたが、程度副詞としての用法に関する記述にとどまっており、応答表現の用法にまでは言及していない。次項では、類義表現としての *Precisely* について辞書の記述をまとめる。

2.2 *Precisely* の記述

本項では、会話で応答表現として用いられる *Precisely* の語義と用例を代表的なESL/EFL用辞書から以下に引用した。

(10) では話し言葉で完全な同意を表して用いられることが記されている。

(10) LAAD 2 [s.v. PRECISELY]

SPOKEN used to say that you agree completely with someone:

"So it was Clark's mistake." "Precisely."

(11) では発言に対して同意していることを強調する表現であることが記されていることにあわせて、同意の根拠として発言の内容が当然であったり自分が発言した内容と似ていることが挙げられている。用例では付加疑問に対する返答が提示されており、noを伴っているが、notを伴う *Exactly* の用法とは異なり、丁寧な否定表現としては使われていない。

(11) OALD 9 [s.v. PRECISELY]

Used to emphasize that you agree with a statement, especially because you think it is obvious or is similar to what you have just said:

'It's not that easy, is it?' 'No, precisely.'

(12) では個別の見出しとしては扱われておらず、形容詞preciseの項目で小見出し扱いとなっている。語義についての記述はなく用例のみが提示されている。

(12) MWALED [s.v. PRECISE]

Adv “Do you mean that the system is outdated?” “Precisely.” = “Yes, that’s precisely what I mean.”

（13）では質問への返答としての用例が提示されており、強意的な表現として用いられることが記されている。

（13）MED 2 [s.v. PRECISELY]

4 spoken used for showing that you completely agree with what someone says or that you think they are exactly right:

‘You mean he took the money for himself?’ ‘Precisely.’

（14）でも強意的な返答であることが明示されており、用例として質問に対する返答が提示されている。

（14）CCADE 8 [s.v. PRECISELY]

ADV [as reply] You can say ‘precisely’ to confirm in an emphatic way that what someone has just said is true. [EMPHASIS]

‘Did you find yourself wondering what went wrong?’ - ‘Precisely.’

（15）でも強意的な返答であることが明示されており、用例として質問に対する返答が提示されている。

（15）CALD 4 [s.v. PRECISELY]

C1 used to express complete agreement with someone or suggest that what they have said is obvious:

“It would be stupid to attempt the journey in the dark.” “Precisely,” he answered.

（16）ではあらたまった表現として人への同意を表すという語義が与えられており、提案に対する同意の用例が提示されている。

（16）LDOCE 6 [s.v. PRECISELY]

Spoken formal used to say that you agree completely with someone:

'It needs to be dealt with now.' 'Precisely, before it gets any worse.'

以下の（17）と（18）も（16）と同様にかたい、または正式な返答として用いられることが記されているが、用例は提示されていない。

（17）『ウィズダム英和3』[s.v. PRECISELY]
　3（(かたい話)）その通りです（【！】同意を示す返答で）
（18）『ジーニアス英和5』[s.v. PRECISELY]
　4《正式》［返事として］まったくその通り

応答表現として用いられる *Precisely* の辞書の記述を見ると、強意的な返答や同意を表す点では *Exactly* と同様の語義が与えられているものの、*Exactly* と比べ語義の内容や用例が省略される傾向があることが分かる。それぞれの見出し語としての重要度については、例えば（8）と（17）で引用したウィズダム英和3では exactly と precisely はどちらも約2,500語レベルの語彙として同列に扱われているが、（6）と（14）の CALD4では CEFR（Common European Framework of Reference for Languages）の基準で *Exactly* の方がより平易な表現であることを示しており、語義同様辞書によって必ずしも統一されていないことが伺える。これらの応答表現の会話における使用頻度差の有無についても検証の必要があると言えよう。

2.3　ESL/EFL 用辞書記述のまとめ

前項で引用した *Exactly* と *Precisely* の辞書の記述については次の表（19）のようにまとめることができる。

（19）応答表現 *Exactly* と *Precisely* に関する記述[3)]

	Exactly					*Precisely*			
	同意の返答	強調 yes	先行する発言		*Not* を伴う表現	同意の返答	強調 yes	先行する発言	
			提案・主張	質問				提案・主張	質問
LAAD	○			○	○	○	○	○	
OALD9	○	○		○		○	○		○
MWALED	○	○	○	○	○	○	○		○
MED2	○	○	○		○	○	○		○
CCADE	○	○			○	○	○		○
CALD4	○	○	○		○	○	○	○	
LDOCE6	○	○		○	○	○	○	○	
ウィズダム英和3	○	○	○		○	○	○		
ジーニアス英和5	○	○		○	○	○	○	○	

いずれの語も強意的な同意を表すという点ではほぼ共通した語義記載となっている。最も顕著な違いは *Not* を伴った表現が定型句として認められている *Exactly* に対して、*Precisely* は丁寧な否定表現としての用法が認められていないことであろう。

最もばらつきが見受けられたのは会話体の用例で提示している文脈である。(3) で引用した MWALED のように、一部の辞書では平叙文による提案・主張と疑問文による質問の用例がどちらも提示されているが、ほとんどの辞書ではどちらか一方の用例が示されているのみとなっている。応答表現は対話者とのやり取りの中で用いられるものであるため、どのような文脈で用いられるのかという点は語法の特性を掴む上で重要であり、コーパスを用いた検証が必要な点であると言える。

次節では、応答表現 *Exactly* と *Precisely* についてコーパスを用いた頻度の検証及び語法・談話機能の分析を行う。

3　コーパスを用いた返答表現 *Exactly* と *Precisely* の語法分析

本節では、第2節でまとめた ESL/EFL 用辞書の記述を踏まえ、Wordbanks*Online* の話し言葉コーパス（bsspok, usspok）を主に用いて、応答表現として用いられる *Exactly* と *Precisely* の語法を分析する。

3.1　使用頻度についての比較

代表的な ESL/EFL 用辞書では *Exactly* と *Precisely* のどちらも、話し手の発話内容が正しいことを認める、または話し相手に対する同意を示す強意的な返答として用いられることが記述されている。しかしながら、これらの表現の会話における使用頻度については明確ではない。使用頻度に関して、会話での談話辞に焦点を当てた McCarthy（2003）は、約700万語規模のコーパスを用い、返答表現として用いられる *Exactly* の使用頻度が *right, wow, true* についで高頻度に用いられることを示している（p.48）。しかしながら、本稿でその類義語として取り上げている *Precisely* については言及していない。McCarthy は頻度の高さに注目して返答表現を抽出しているため、分析対象として取り上げられなかった *Precisely* については使用頻度がより低いと推察することができる。しかしながら、前節で触れたように、どちらの語も程度副詞としては同程度の重要語として扱っている ESL/EFL 用辞書もあり、応答表現として用いられる際の使用頻度の差については不明確である。以上を踏まえると、コーパスを用いてこれら2つの表現の頻度差を検証する意義があると言えよう。本項ではこの点について McCarthy が採用したものより大規模なコーパスである Wordbanks*Online* を用いて使用例の検出を行い、以下の表（20）、（21）にまとめた。

（20）使用頻度比較[4)]

	Exactly	*Precisely*
使用頻度	1,164	136[5)]
アメリカ英語	350	89
イギリス英語	814	47

表（20）は、話し言葉コーパスにおけるそれぞれの表現の使用頻度及びアメリカ英語とイギリス英語の差をまとめたものである。会話における使用頻度の点からは *Exactly* の方がより一般的に用いられる表現であり、実数の比較では8倍以上多く使われていることを確認することができた。

Precisely はイギリス英語でもアメリカ英語でも使用頻度が低く、特にイギリス英語では *Exactly* と比べると約17分の1であり、その使用頻度の差は顕著であった。比較的差の開きが少ないアメリカ英語でも Exactly と比べて約4分の1の使用頻度にとどまっていることが明らかになった。応答表現としての使用に限れば、*Exactly* がより一般的であり、*Precisely* は使用頻度の低い有標な表現であると言える。話し言葉コーパスで検出できる一般的な副詞として用いられる precisely については、アメリカ英語とイギリス英語で検出数に顕著な差がないため[6)]、使用頻度の差は応答表現の際立った特徴の1つと言えるであろう。

3.4　先行する文との関係

ESL/EFL 用辞書で提示されている用例では先行する文との関係が十分に示されていないため、本項では先行する発話の形態について疑問符を伴う疑問文と意見などの陳述を表す平叙文に分類し、*Exactly* と *Precisely* が用いられる文脈について焦点を当てる。検出数をまとめたものが次の表（21）である。

（21）先行文との関係[7)]

	Exactly	*Precisely*
疑問文	62	7
平叙文	556	30

（22）疑問文に続く *Exactly* と *Precisely*

(a) MR WOODGATES: They are not allowed to criticize their royal families or the self-appointed presidents and other premiers?

PROF. SIEGAL: <Exactly.> These are closed societies. The tragedy of the Middle East is what it has taken from the West is not the rule

of law, or small “l” liberalism or democracy, but fascism and communism.

[usspok, SU3-020906]

(b) HEDGES: Presumably they have to learn exactly where to go because it’s so dark they can’t see where they’re going at all?

REDMOND: <Precisely.> Well I think they must learn a sort of a layout of the cave in their minds and that’s why it’s so difficult for them when there’s a rockfall, because suddenly everything’s changed.

[brspok, SB2-901102]

（23）平叙文に続く *Exactly* と *Precisely*

(a) GROUCHO: Now I say to you gentlemen that this college is a failure. The trouble is, we’re neglecting football for education.

COLLEGE OFFICIALS: <Exactly,> the professor is right.

[usspok, SU3-020721]

(b) <M01/> And also <tc text=“coughs”/> people write out very large cheques or run up very large bills

<F01/> <Precisely.>

<M01/> for their gym <ZF1/> on <ZF0/> on their credit cards

<F01/> Yeah.

[brspok, SB1-1669]

コーパスで検証した結果、（22）のように疑問文に対する答えとして yes の強調表現として用いられているのは、*Exactly* が全体の約1割、*Precisely* が約2割となっており、いずれの語も質問に対する答えではなく、（23）のように話し手の意見や主張に対して同意する際に用いられることの方が多いことが明らかになった。

本稿で取り上げている応答表現が、所謂あいづち表現に焦点をあてた先行研究で取り上げられてこなかった理由の1つは、*uh-huh* のような典型的なあいづち表現は通例話し手が発話権を保持し話を続けることを表す合図であると言う見方が広く受け入れられてきた背景があるためである。このような解釈は、backchannel に関する研究に広く浸透しており、言語比較の研究にまで波及している。英語と日本語におけるあいづち表現の使用を比較した Clancy（1996）では、日英両言語の分析対象となるあいづち表現を「話し相手が発話権を保持し発話を行っている際に聞き手によって発せられる短い表現（p.356）」と定義しており、聞き手による発話は

発話権を要求しないものであるとしている。すなわち、聞き手に発話権が移ることが前提となる質問に対する答えは分析対象に含めていないのである。しかしながら、第2節で引用した辞書の記述にもある通り、また（23）でも示されたように、本稿で取り上げている応答表現は質問に対する答えとしてだけでなく、相手の意見や考え等に対する同意としても用いられている。このような使われ方は話し手が発話権の移行を想定しているわけではなく、話者交替を必然的に伴うものではない。つまり、本稿で焦点を当てている *Exactly* とその類義表現である *Precisely* の語法を分析するにあたり、あいづち表現を扱った先行研究を分析の礎とする意味があることを示していると言える。

3.5　後続の文との関係

ESL/EFL 用辞書の用例では、先行する質問や陳述に対する返答として *Exactly* と *Precisely* が用いられることを示すにとどまっており、後続の発話については触れられていない。もとより辞書では紙面の制約があるため1つの見出し語に対して際限なく用例や解説を加えることはできないが、応答表現が及ぼす後続の談話構築への影響は、特に個別の表現に焦点を当てた語法研究の場合において軽視できないものである。

この点に関して、Tolins and Tree（2014）は、会話において聞き手が発するあいづち表現がその後に続く談話の内容に与えうる影響に着目し、録音データによる談話分析と実験データによる分析を行った。Goodwin（1986）や Bavelas et al.（2000）でのあいづち表現の分類に沿って、Tolins and Tree は会話におけるあいづち表現を、*uh huh* や *yeah* のような聞き手として会話に参加し話の内容に理解を示す表現（generic backchannels）と、*oh* や *wow* のような話の内容に対して聞き手としての態度や評価を示す表現（specific backchannels）に大別した。その上で独自に記録した大学生同士の対話の録音データの分析と、書き起こした不完全な会話を読ませ特定のあいづち表現が出現した後に話し手としてどのように会話を発展させるのかという実験データの分析を基に、聞き手による所謂あいづち表現が後続の話し手の内容や会話の構築に影響することを明らかにしようとした。Tolins and Tree は特に聞き手が specific backchannels を発した場合、話し手は話の流れを止めて聞き手が反応を示した内容についてより詳細に述べる傾向があり、generic backchannels と比べ談話の構築への影響が大きいことを指摘した上で、これを proactive backchannelling theory と呼んでいる。

Tolins and Tree（2014）では、*uh huh* や *wow* のような非語彙的なあいづち表現が分析対象の中心になっており、副詞のように修飾語としての意味を持つ内容語が同様の表現として用いられる場合については分析対象となっていない。また ESL/EFL 用辞書でも後続の文脈については提示されていないため、proactive backchanneling theory に基づく分析は、応答表現

Exactly と *Precisely* の特性を示す上で有効な分析方法となりうるものである。

以上を踏まえ、本項では話し手に対する同意として用いられているデータの中で、話者交替が起こっていない例を抽出し、proactive backchannelling theory の視点から、話し手が応答表現前後でどのように談話を構築しているのか検証する。

Exactly と *Precisely* について後続の談話から、その機能を specific（assessment）と generic（continuer）に分類したのが表（24）である。

（24）back channel としての機能

	Exactly	*Precisely*
generic	85	21
specific	22	4

いずれの応答表現も談話では generic な機能を持つことが多く、*Exactly* では107例中85例、*Precisely* では25例中21例が話し手の直前の発話内容を受け入れ後続の発話を促すものであった。Tolins and Tree では、聞き手による generic なあいづち表現があった場合、話し手は *so, well, but* のような談話標識を挟んで会話を続けることを文脈上の特徴の一つとして指摘しているが、コーパスの検出例でも（25）のように同様の特徴が観察された。また（26）のように *and* が現れる例も複数検出された。（26）では、聞き手（<M01/>）は、先行する文脈で continuer として *Yes* や *Yeah* を使用しており、同様の機能を持つ backchannel として *Exactly* を用いていることが分かる。話し手（<M02/>）は聞き手の反応に影響されることなく後続の情報を提供していることを示している。

（25）<M06/> There's about twenty or thirty people I suppose.
<M07/> Exactly.
<M06/> But aren't you worried that by promoting tourism in <PN1/> Coramandle <PN0/> you're going to destroy the thing that people come here for?
[brspok, SB1-1587]

（26）<M02/> Your father made his feelings clear to me
<M01/> Yes.
<M02/> once before
<M01/> Yeah. Yeah.
<M02/> that he didn't want to get involved.

<M01/> Exactly.

<M02/> And he said he don't know what you were playing at I'll be quite honest about that as well.

[brspok, SB1-0746]

specific な応答表現として後続の談話に影響を与えているものは *Exactly* で107例中22例、*Precisely* で25例中4例であった。Tolins and Tree では specific なあいづち表現で聞き手が反応した場合、*yeah* のような同意を表す表現を挟んで加の情報を提供することがあると指摘しているが、その他に *I mean* のような言い換えの表現も複数検出された。以下(27)に例を示す。

(27) <M01/> a hundred and ninety-three per cent rise

<M05/> That's yeah that would be right. He

<M01/> <ZF1/> he's <ZF0/> he's not <ZF1/> it's <ZF0/> it's the level of the increase

<M05/> Mm.

<M01/> which I think is objectionable.

<M05/> Exactly.

<M01/> I mean I don't mind people earning big salaries to some extent but it's all of a sudden say last year you did the job for this this year you can have three times as much.

[brspok, SB1-0154]

いずれの応答表現も主に generic（continuer）な backchannel としての機能を持つことが観察された。しかしながら、その頻度について有意差は見られず（x^2=0.056, p>0.05）、応答表現 *Exactly* と *Precisely* は談話機能の点から見ても類義性を保っていることが明らかになった。

3.6　コーパスデータに基づく相違点

本節では、コーパスを用いて応答表現 *Exactly* とその類義語 *Precisely* それぞれの使用頻度や前後の文脈に注目して比較した。2つ語の類義性は ESL/EFL 用辞書での語義記述に見られただけではなく、proactive backchannelling theory に基づいた談話機能の分析でも観察された。

相違点については、使用頻度で顕著な差を示しており、より一般的に用いられる *Exactly* に対し *Precisely* は使用頻度が低く有標の表現であることが示唆された。頻度差に加えて、本項

では、応答表現としての繰り返し表現に注目し、*Precisely* の有標性について論じる。会話における繰り返し表現の差は以下（28）の通りであった。

（28）繰り返し表現の頻度[8)]

	Exactly	*Precisely*
繰り返し表現	48	1

繰り返して用いられるそれぞれの例を以下（29）と（30）に示す。

（29）<M01/> Any dog could bite any child at any <num000/> time.
<F02/> Exactly. Exactly. But knickers I'm sorry I just dropped something.
[brspok, SB1-0103]

（30）<M01/> No it wouldn't. You wouldn't have been there five years ago either.
<M09/> Well precisely. Precisely.
<M01/> Now what's it like Tell I have never been to East Berlin.
[brspok, SB3-000902]

上記の例に示されたように、応答表現を繰り返して用いる場合、対話者の発言に対し咄嗟の反応として同意していることが伺える。応答表現としてより一般的に用いられる *Exactly* は、本来の完全な同意という語義が薄れ、発話内容に対する肯定的な反応という側面がある一方で、*Precisely* は同様の繰り返し表現がほとんど観察されなかった。このことから、*Precisely* は、咄嗟の反応としての同意ではなく語義を維持しており、対話者の発話内容を吟味した上で冷静に情報の正確さや意見の一致を強調して用いられている傾向があることが推察される[9)]。

応答表現 *Exactly* の類義表現である *Precisely* については、ESL/EFL 用辞書の語義や用例だけでなく談話機能についても類義性が認められたが、本項では会話における繰り返し表現での使われ方に注目することで *Exactly* とは異なる *Precisely* の有標性を示した。

4　結　語

本稿では、会話において応答表現として用いられる *Exactly* とその類義表現である *Precisely* に焦点を当て、ESL/EFL 用辞書での記述を踏まえた上で、その使用頻度や語法についてコーパスに基づいた検証を行った。特に後続の談話との関連に目を向け proactive backchannelling theory の枠組みによる分析を行い、先行研究では取り上げられてこなかった談話機能とその

類義性を明らかにした。また、繰り返し表現の使用頻度の差を示し、コーパスデータを基に相違点についても明らかにし、類義表現の使い分けについても論じた。

注

1）本稿では分析対象とする *Exactly* と *Precisely* を応答表現と呼ぶ。被修飾語を伴う程度副詞と区別して応答表現を指す場合に語頭を大文字とする。また、あいづち表現を扱った先行研究との関連については第3節に記述した。

2）辞書における各見出し語の語義記述には、本稿で分析対象としている応答表現の用法とは直接関連がないものも多いため適宜編集したものを引用データとして提示した。また用例の引用は二重引用符で統一した。

3）参考にした辞書では *Precisely* の語義記述について Not を伴う用例が提示されていないため、(19) の表からは省略した。

4）本稿では主として Wordbanks*Online* の話し言葉コーパス（brspok, usspok）を分析に用いているが、表（20）の頻度に関してはその他のサブコーパスも検索対象に入れた。話し言葉コーパス（brspok, usspok）以外での検索では会話体として使われているデータのみを検出するために異なる検索式を用いた。それぞれの検索式は以下の通りである。

話し言葉コーパス（brspok, usspok）の検索式

[word="Exactly"] [word="\.|\,|\!|\-"]

[word="Precisely"] [word="\.|\,|\!|\-"]

話し言葉以外のコーパス（brbooks, brephem, brmags, brnews, brregnews, 及び usbooks, usephem, usmags, usnews）の検索式

[word="\"|\'"] [word="Exactly"] [word="\.|\,|\!|\-"]

[word="\"|\'"] [word="Precisely"] [word="\.|\,|\!|\-"]

5）アメリカ英語の話し言葉コーパス（usspok）では、応答表現として単独で用いられる *Precisely* が検出されなかったことには言及しておかなければならない。しかしながら大規模アメリカ英語コーパスの1つである Corpus of Contemporary American English（COCA）では、話し言葉コーパスから応答表現として用いられる *Precisely* が複数検出されており、アメリカ英語の話し言葉で稀な表現であると断定することまではできない。COCA では case sensitive な検索に対応しておらず、本稿で分析対象とする表現形式を検出するには適さないため、本文中でその検索結果やコーパスデータを引用することは控えた。

6）一般的な副詞として用いられる precisely について、アメリカ英語のコーパス全体（usbooks, usephem, usmags, usnews, usspok; 193,335,395tokens）を対象として場合の検出数は4,131であった（品詞 adverb を指定した lemma 検索）。イギリス英語コーパス全体（brbooks, brephem, brmags, brnews, brregnews, brspok; 165,828,048tokens）からの検出数は4,039であった。コーパスサイズの違いによる母数の差を考慮しても、本稿で示した返答表現の比較の場合に見られたような顕著な差は、一般的な副詞として用いられる場合には認められない。

７）検索式は以下のものを使用した。

平叙文に続く Exactly: [word="\."] [word="<F.*>|<M.*>"] [ ] {0,2} [word="Exactly|exactly"] [word="\.|\?|\!|\-|\,"]

疑問文に続く Exactly: [word="\?"] [word="<F.*>|<M.*>"] [ ] {0,2} [word="Exactly|exactly"] [word="\.|\?|\!|\-|\,"]

平叙文に続く Precisely: [word="\."] [word="<F.*>|<M.*>"] [ ] {0,2} [word="Precisely|precisely"] [word="\.|\?|\!|\-|\,"]

疑問文に続く Precisely: [word="\?"] [word="<F.*>|<M.*>"] [ ] {0,2} [word="Precisely|precisely"] [word="\.|\?|\!|\-|\,"]

８）Wordbanks*Online* の話し言葉コーパス（brspok, usspok）を対象に以下の検索式を用いてデータを抽出した。

Exactly の繰り返し表現：[word="Exactly|exactly"] [ ] {0,1} [word="Exactly|exactly"]

Precisely の繰り返し表現：[word="Precisely|precisely"] [ ] {0,1} [word="Precisely|precisely"]

９）*Precisely* の有標性については、"higher stylistic level" や "pretentious" を含意する場合があるというコメントをイギリス人 informant から得たが、これは反射的な返答としてではなく、発話内容を吟味した上で、より冷静な強意表現として意識的に用いている *Precisely* の一面と符号すると言える。

参考文献

Bavelas, J. B. and Gerwing, J. (2011) The listener as addressee in face-to-face dialogue. *Journal of Listening* 25, 178–198.

Biber, D., Johansson, S., Leech, G., Conrad, S., and Finegan, E. (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education Limited.

Clancy, P. M., Thompson, S. A., Suzuki, R., and Tao, H. (1996) The conversational use of reactive tokens in English, Japanese, and Mandarin. *Journal of Pragmatics*, 26, 355–387.

Deuter, M., J. Bradbery and J. Trunbull (eds.) (2015) *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. Ninth Edition. Oxford: Oxford University Press. [OALD9]

Goodwin, C. (1986) "Between and within: alternative sequential treatment of continuers and assessments." *Human Studies* 9, 295–27.

井上永幸・赤野一郎（編）（2013）『ウィズダム英和辞典』第3版．三省堂．［ウィズダム英和3］

Mayor, M. (ed.) (2014) *Longman Dictionary of Contemporary English*. Sixth Edition. Harlow: Pearson Education Limiited. [LDOCE6]

McCarthy, M. (2003) Talking back: "Small" interactional response tokens in everyday conversation. *Research on Language and Social Interaction*, 36(1), 33–63.

南出康世（編）（2003）『ジーニアス英和辞典』第5版．大修館．［ジーニアス英和5］

Perrault, S. J. (ed.) (2008) *Merriam-Webster's Advanced Learner's English Dictionary*. Springfield, MA: Merriam-Webster, Incorporated. [MWALED]

Rundell, M. (ed.) (2007) *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners*. Second Edition. Oxford: Macmillan Education. [MED2]

Sinclair, J. (founding ed.) (2014) *Collins Cobuild Advanced Learner's Dictionary*. Eighth Edition. Glasgow: HarperCollins Publishers. [CCALD8]

Summers, D. (ed.) (2009) *Longman Advanced American Dictionary*. Harlow: Pearson Education Limited. [LAAD2]

Tolins, J. and Tree, J. E. F. (2014) Addressee backchannels steer narrative development. *Journal of Pragmatics* 70, 152–164.

Walter, E. (ed.) (2013) *Cambridge Advanced Learner's Dictionary*. Fourth Edition. Cambridge: Cambridge University Press. [CALD4]

Yngve, V. (1970). On getting a word in edgewise. *Chicago Linguistic Society* 6, 567–578.

コーパス

WordbanksOnline. (553,171,489 tokens). Glasgow: Harper Collins Publishers.

A Corpus-Based Investigation of the Discourse Particle *Exactly* and Its Synonym

YAMAMOTO Goro

The objective of this paper is to investigate the usage and function of the discourse particles *Exactly* and its synonym *Precisely* using a corpus. Since the coining of the terminology "backchannel" by Yngve (1970), numerous studies have focused on the so-called backchannel expressions, both lexical and non-lexical. However, many previous studies have focused on expressions having a limited range, such as *oh*, *uh-huh*, *wow*, *Really*, and so forth, even though Yngve pointed out that any form including a sentential expression such as *Oh, I can believe it* could be a backchannel in discourse. *Exactly* and *Precisely* are some of the expressions that have not been exclusively investigated. The study by MaCarthy (2003), which broadened the range of target expressions and developed a list of lexical items, mentions *Exactly* as one of the most frequently used discourse particles in English oral communication; however, the study was not spared for the function or usage of this particular expression nor did it focus on comparisons between synonymous expressions. Although major ESL/EFL dictionaries widely recognize the usage of *Exactly* and *Precisely* as a listener's response, the descriptions of these two expressions are limited and do not accurately capture the difference between the two. Especially, most of the contexts provided in the dictionaries show how the target expressions are used in relation to a preceding question alone.

To capture the functions of these two synonymous discourse particles, this study utilizes the proactive backchannelling theory proposed by Tolins and Tree (2014). Using the data from Wordbanks*Online*, this study sheds light on the relation of these discourse particles with the following utterance. The corpus data reveal some differences, as well as similarities, between *Exactly* and *Precisely*. Especially, the data show that *Precisely* is a marked discourse particle that is rarely used as a doublet, indicating that it is intentionally uttered to emphasize the listener's complete agreement to what someone has said.